

例会報告 Rotary



クラブアッセンブリー

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 会長 下屋勝比古
- 幹事 塚本 直人
- 会報委員長 挾土 貞吉

大垣共立銀行高山支店 4F

世界に希望を生み出そう

<会長の時間>

「24日市は荒れる」といわれますが、今年も最強寒波で雪が降る中、たくさんの人で大盛況だったようです。海外からの観光客もたくさんいたようです。この時にしか見ない“しょうけ”や“しゃもじ”などがあり、飛騨高山の冬の風物詩です。

さて、今日は「クラブアッセンブリー」ということで、いわばハーフタイムです。現在、ここに立っていますが、入会当初、初めて委員長をしたときはこの意味がよくわからず、なんとなく報告や運営を先輩に言われたままやっていました。至らぬ運営に日々悩みながら運営していますが、前半戦の振り返りと後半への準備をする時間です。

ビジネスにおける「アッセンブリー」は、製造業では大量生産工場などにおけるライン上の組み立て工程、企業によってはライン作業全般、また販促・流通業界では複数のアイテムを一纏めにする作業等をいいます。クラブ活動における「アッセンブリー」は集会・会議の意となります。それぞれの委員長さんには素晴らしいアイディアをプログラムとして遂行していただくことで、クラブの例会がどんどん組みあがって、最終例会の時には皆さんが「己を完成して」それを「会社や社会活動へ還元」して「自他共栄」を実現するための大切な時間です。

本来はプログラム活動について話し合い、新会員を中心にクラブについて学ぶためぜひ参加してほしいものです。クラブの長所と短所を理解し、クラブの目標を立て、行動計画を立てる。そしてクラブの行動計画がどのように実施されるのかを検証し、委員長の経験をもとにプロジェクトに参加してそれを学ぶ。

先回と今回は大切な時間を使って、委員長さんは例会プログラムに加え、クラブ運営を組み立てていく報告と決意をお話いただく貴重な時間です。

今日はそれぞれの発表に耳を傾け、後半戦の盛り上げるパワーに変えていきたいと、期待しています。

<幹事報告>

<例会変更>

高山 … 2月29日(木)は、規定休会

<お祝い>

新年例会ご欠席の遠藤さんへ、賀寿の品物を贈呈しました。

還暦 …
遠藤 隆浩さん



<出席報告>

出席者数	会員数	出席率
28名	36名	82.35%

<本日のプログラム> クラブアッセンブリー

ニコニコ委員長 堀 幸一郎

前期の活動につきましては例年通り、受付にて、ニコニコを集めるべく勧誘させて頂きましたが、やはり出席率を上げることが大切だと感じております。また集金手段として、素晴らしい仕組みであります「相乗りのニコニコ」について会長の提案で12月例会中、「個人のニコニコ」を増やす取り組みを行い、ニコニコ内容の活性化を図りました。今年度予算の¥30,000については後期に担当例会で使用する予定です。

2月16日の担当例会では「今さら聞けない新NISA」という題目で大垣共立銀行さんに講義して頂きます。大変身近で相談しやすい方をお願いしたつもりです。当日は是非ご出席頂き、皆さんのニコニコをよろしくお願いします。



クラブ運営管理部門長 大村 貴之

基本方針を『各委員会の役割を理解し、クラブの効果的な運営のために活動する』として、前期は、委員会ごとに委員を所属させ、例会当番等の役割を明確にして責任もって活動できるようにしました。委員会によっては何度も当番が当たるなど少ない人員で協力して行っていたありがとうございます。後期も同様、委員会ごとに当番制で行っていただきますのでご協力お願いします。なお、都合の悪い場合は責任をもってほかの会員と交代してください。

また、今年度は翌月の例会プログラムを配布しております。RC月間テーマ・例会予定・例会当番・会員誕生日・配偶者誕生日・結婚記念日など記載しておりますので、引き続きご活用ください。

会報・雑誌・広報委員長

挾土 貞吉

副委員長は高井道子さんです。下屋会長より、脳トレと思いやれとの命令で半期曲りなりに何とか努めて参りました。又大村部門長からは会報には、己を磨くための記事「人間力」テーマ



例会報告

で掲載するよう指示があり、今順次書いて頂いている処ですが、この記事載せたことで自己啓発になり、又見る側も興味を持って読むことができ会報そのものを皆さん楽しみにして見えるのではないかと思います。尚記事作成は中澤里恵事務局長さんに全部、おんぶにだっこ、おまかせで申し訳なく思っています。

「雑誌紹介」は、この場に立って本のページが開けず、紹介と言うより先読みした私のコメント、感想を述べており「意味不明」で聞きづらい紹介で申し訳なく思っています。御免なさいです。

「広報」は、年度初め下屋会長肝入りの財団事業、高山市の青少年育成目的での相撲土俵整備と、世界文化センターでの元横綱稀勢の里、大講演会をロータリーの友 12 月号に掲載しました。尚昨年 12 月最終担当例会で、福岡大学元学長石田重盛先生を迎え貴重な卓話を頂きました。先週山田 AG 訪問での「誉め言葉」を聞き我が西クラブ下屋会長テーマ自他共栄、魂の入った品格ある例会運営が全国に伝達「広報」できているようで誇りに思っています。あと半期 6 カ月間、皆さんのご指導ご鞭撻宜しくお願い致します。

親睦活動委員長 井口 大輔

親睦委員会は例年通り大きく 3 つの例会運営を担わせて頂いており、今期は「知ってるようで実はよく知らない、わかってないことを学んでみよう！」をテーマに企画しています。上期事業として

■10月7日「紅葉例会」

高山のシンボルでもある[高山陣屋]をガイド説明付で見学したあと、寛政 6 年(1794 年)創業の県内最古の料亭[洲さき]様にて家族も交えて例会を行いました。高山の基礎を創ったといわれる[金森宗和=宗和流]の歴史・文化を学び、高山芸子やメンバーの和芸や余興を観て触れて、楽しんで頂けたのではないのでしょうか。

■1月7日「新年家族例会」

恒例の新年家族例会ではグリーンホテル様にて美味しい和膳を頂きながら、下屋会長推し「女性だけの和楽グループ=ホワイトパール」の和のエンターテイメントを楽しんだあとは、下屋会長の青春の思い出ソング「狙い撃ち」皮切りに新会員からのリレー形式カラオケ大会を開催。S さんの自前金ラメ衣装での「マツケンサンバ」や当会初の女性ユニット N ナッツによる必見「恋のパカンス」をはじめとし、個々の意外性いっぱい十八番唄を聴いて楽しませて頂きました。

下期は春に岐阜県の伝統漁[鵜飼い]を学び、鮎を嗜む「新緑例会」を企画しております。メンバーの皆様にご満足頂けるよう企画させて頂きましますので、ぜひぜひ多数のご参加お待ちしております。

PS：毎年恒例となっている市内 5 クラブ親睦ゴルフ大会は次回当会が当番です。10 月 27 日高山 CC で予定させて頂きましたので、冬の間も精進して会一丸となって「めざせ全員 90 切っ！めざせ優勝！」がんばっていきましょう！！



出席・プログラム委員長

門前 庄次郎

こんにちは、『出席・プログラム委員会』です。委員長に私門前、副委員長に榎坂純一さんと二人で細々とやらせて頂いています。

基本方針を『*例会出席の向上を目指し、例会出席が出来ない会員にはメイクアップやオンライン出席を推奨する。*例会担当委員会は会報原稿提出までが責務である事を確認し、有意義な

場となるように円滑な例会運営を目指す』としております。

私自身が前半は欠席することが多かったので偉そうな事は言えませんが、最近はオンライン出席も有りますし、メイクアップの方法も年間を通してと言うことで、しやすくなりましたので、そう言った事も活用して、出席率を伸ばして頂きたいと思います。3 月には義務教育 9 カ年皆出席の表彰も有ります。当該の子ども達に負けないよう、皆出席に挑戦して頂きたいと思います。

また昨年 12 月 8 日の担当例会では DEI 推進小委員会委員長の野原佳子様に来て頂いて卓話を頂きました。委員会の名前に有りますようにクラブの『多様性・公平性・公正さ』を大切にしながら、活性化する事が大切と話されました。当クラブもそういう事を意識しながら活動できると良いと、感じました。

そして下期には例会出席の大切さを思い 100%出席を目指す日を設けたいと思います。



ロータリー情報委員長 遠藤 隆浩

上半期は新規に入会された大屋さん、佐藤さん、平さんをお迎えして会長、幹事、副委員長の堺さん、私でオリエンテーションを行い親睦を深めました。

担当例会では屋台保存会の北村直久さんに講師をしていただき高山祭りについて大変貴重なお話を頂きました。

下半期も新しく会員が入りオリエンテーションが開くことができたいと思います。

また岐阜で開かれた研修に一度出席しましたが下半期も出席し皆様に有意義な情報をお伝えしたいとおもいます。

よろしくお願いします。



会員増強委員長 長瀬 達三

代理 幹事 塚本 直人

本年度の当委員会の基本方針は、「クラブの円滑な運営と活性化に会員増強は必須だが、闇雲に人員を増員すればクラブの質の低下を招くことになりかねない。我がクラブのメンバーとして、ロータリアンとしてふさわしい人物に照準を絞ったうえで、1 名でも純増することを目指す。」でした。

本年度の活動内容については、今期 2 回開催されたオープン例会にターゲットを招いて参加して頂きました。3 月にもう一度開催されますが、今のところお一人は固そうな状況です。純増目指して頑張ります。

例会報告

社会奉仕委員長 高井 道子 代理 幹事 塚本 直人

副委員長は古橋直彦さんで、基本方針を「現在地域社会で求められている社会奉仕活動を探求し、新たに社会貢献できる活動を提案する」としております。

上期には事業が無く下期3月に2回の担当例会を予定しています。登校が難しい状況にある児童・生徒への支援活動を行っている団体関係者の卓話を計画中です。

職業奉仕委員長 田邊 淳

副委員長は田近毅さんです。

基本方針は「自身の職業において努力、向上し切磋琢磨することにより社会に貢献し、ロータリアンとしての誇りをもつ。自らの職業においてSDGｓ取り組みを進めるため、SDGｓへの理解を深める。」としており、その為の活動として10/28「中尾地熱発電所視察」を行いました。

地熱発電は持続可能なエネルギーであり、二酸化炭素も排出せず、日本有数の施設を視察できたことは有意義であったと思います。地熱発電所自体も普段見ることのできない施設でしたが、過去他地区の地熱発電所建設においては、地元温泉利用者と対立構造が目立ちますが、中尾地区においては、中尾温泉組合と地熱発電所がWinWinの関係で成り立ち、プロジェクトXにも採用されそうな設立までの紆余曲折は、感動ものであったと思います。



国際奉仕委員長 野尻 陽子

委員長を仰せつかっております野尻陽子です。はじめての委員長ということで慣れない点等あるかと思いますがよろしくお願いいたします。

国際奉仕委員会としては前期の活動は特にございませんでしたが、前年度か

らのひきつぎもふまえて、海外や他のクラブがどのような活動を行っているのか、また、時代の変化等の

中でどのような活動が求められているのか等について、振り返りや検証等できたらと思います。また、3月の担当例会では高山市の国際戦略室の方、または高山市旅館組合の女性部である「おもてなでしこ」どちらかの方のお話をと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

青少年奉仕委員長 榎坂 純一

副委員長は中島さんです。青少年奉仕では、「出前講座」と「9ヵ年皆出席表彰」が2大企画となっています。

10月に東山中学校にて開催されました出前講座には、多数の方に講師としてご参加いただき、誠にありがとうございます。中学校の生徒さんが、これからの自分のキャリアについて考えるきっかけになれば幸いです。反省点としましては、もう少し学校が求めているものをしっかりとヒアリングできればよかったのではないかと考えています。

また、9ヵ年表彰に関しましては、現在学校側と調整中となっております。



ロータリー財団委員長 内田 幸洋
9月15日の担当例会では、地区補助金事業「相撲と触れ合う一日」について、実行委員長杉山さんから報告してもらいました。

米山奨学委員長 斎藤 章

委員長の斎藤 章、副委員長の井部一章さんとの2人体制で担当致します。米山奨学会の理解と寄付への協力を基本方針として活動します。

今年度は4月よりの米山奨学生の受け入れが決定しております。詳細は不明ですが、おそらく岐阜大学生とおもいます。今年度・次年度にわたりますが、宜しくお願い申し上げます。

寄付のお願いに関して活動計画書の29ページにも掲載されておりますが、米山協力者として5000円から5000円単位で、功労者としての10万円の寄付を募っております。併せて宜しくお願い致します。



<ニコニコボックス>

●下屋 勝比古さん、塚本 直人さん

今シーズン最大の寒波で岐阜県は大変でした。連日の雪除けでお疲れの方も多いと思います。くれぐれもご自愛下さい。本日はクラブアセンブリーです。委員長の方より宜しくお願い致します。

●遠藤 隆浩さん

新年明けましておめでとうございます。今年は元日から大変な年になりました。一年間よろしくお願いいたします。

●門前 庄次郎さん、堺 和信さん、杉山 和宏さん、榎坂 純一さん、井口 大輔さん、野尻 陽子さん、中島 一成さん、平 康裕さん
1月7日の新年家族例会には、会長幹事さん、担当委員会の皆様有難うございました。とても盛り上がり楽しいひと時を過ごさせて頂きました。その時の二次会費の余った分を少しですがニコニコへ！

●岡田 賛三さん、田近 毅さん、斎藤 章さん、米澤 久二さん、田中 武さん、門前 庄次郎さん、鴻野 幸泰さん、田邊 淳さん、中島 一成さん、佐藤 貴史さん

今季一番の寒気もピークを過ぎたようで一安心です。30センチを超える積雪でしたか、雪よけお疲れ様でした。今後寒さは残るようですが、車の運転や転ばないようにお互い気を付けましょう。

建築の歴史

田中 武

『日本建築』学問として成立するのは明治時代以降である。法隆寺が日本最古建築である。

建築家（辰野金吾・1854～1919）が設計した、旧日本銀行・旧岩手銀行・日本銀行・みずほ銀行・第一銀行・旧二十三銀行・旧朝鮮銀行・大阪では、大阪中央公会堂・旧大阪教育生命保険・旧日本生命保険・奈良ホテル本館・松本健次郎邸・武雄温泉桜門・九州工業大学・中央停車場（現・丸の内口駅舎というように素晴らしい建物が今でも健在な建物も有ります（参考 1905 年にシカゴでポールハリスが三人の仲間達と RC を作った年です）。知らない人はいないと思いますが私がすごく興味を持ったのが白川郷の合掌造りです。

柱の組み方に無駄が無く、釘やカスガイを一切使わず、クサビの他はわら縄やネソと称する粘り強い木をひねったもので結んで有り、現在の構造計算を用いても完璧だとお墨付きを頂いてあります。

日本の建築が大きく変わったのが、明治 40 年ころに、セメント・鉄骨・ガラス（工業化したのは旭硝子）同じく、集成材がでてきて（木材不足）瓢箪から駒ともいわれていました。それからどんどんと大型建築が建つようになりました。民間の住宅も同じく建つようになりました。その頃は建物の高さ制限も有り（柱の長さが制限され、1.5 階建て？（前の柱長さが 4.5M～税金の関係だと言う人もいたような気がします）住宅建築は職人のプライド（職人氣質）が高く、例えば大工の弟子になると朝早くから夜遅くまで働き、棟梁の言うことは絶対で有り、口答えなんかは絶対に出来ない時代でした（全ての職人はそうでした）。今のように機械もなく全て手仕事でした（一人前になるには人にもよりますが 6～7 年から 10 年位はかかったような気がします、休みは盆と正月くらい。最近では社寺建築にかかわる業者さん特に大工さんはかなり減ってしまいました）。

日本の住宅の基本的な材料は大きく分けて（木と土）からなっていると思います。大工さんは、木を愛し木に対してプライドを持っていました。左官屋さんは土を愛し土にプライドを持っていました。参考（下屋会長の相撲道の中で土俵造りを一緒に見せて頂き、土（荒木田土）には大変興味を持ちました）職人さん達は特に土に関心を持たれたと思いますが（同じ土でも用途に応じて又日本の土蔵に使う土も普通の土では有りません）又土間漆喰叩きは（高山陣屋等、古い町並み文化財保存住宅の玄関や酒蔵）最近の事情はどうでしょう？確かにハウスメーカーさんの建物は特にデザインが上手いと思います。暑さ寒さも全て機械化、電子化され、パソコン上で全てお客さんの前で（間取り、家族構成・予算・借入等）まるでゲームのように、私たち地元業者は CM くらいが出来ないくらいで対応していますが、職人氣質の心のこもった本物の建物はどこへ行くのでしょうか？本物の木材、（土、特に土蔵）は昔気質の職人さんだけが知っているのでしょうか？ハウスメーカーさんの木材は集成材～積層材がほとんどです。それも外材（輸入材）本当の木の良さを分かってくれる人がいなくなるのではと思います（国産の木材は 100 年経ていれば 100 年は持つと言われていました）。又日本の檜は時間が経てば経つほど艶が出ます（産地にもよりますが）。ハウスメーカーさんの仕事を見ているが職人さんは、1～2 週間の訓練を受けて即仕事にかかります、特に木材は集成材なり積層材で本物の木が無いような気がします。内部はボードにクロス貼り、外観は庇無し、見た目は恰好良く出来ています。建築単価も結構高いと思います。私たちは日本の伝統である日本古来の本物の建築物が無くなる時代が来るのかな？私たちは日本の伝統である日本建築を忘れてはならないと思います。本来の日本建築の良さを残す必要が有ります。もっと日本本来の建築を勉強し後世に残るように頑張りたいと思います。

タイトルの『人間力を高める』とは少しかけ離れている様な気がしますが私の（一生職人氣質）みたいなものですこんなところで許して下さい。